



2018
No.322

1

月号

2018年1月19日発行
■発行責任者/佐藤幸雄 ■編集・制作/(株)プロトリオス
■発行/(株)NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL03(5475)1200

定価/1部30円

News

全国整備工場の皆様へ
NGP 組合員 200 拠点がお届けする
お役立ち情報

平成 30 年 理事長年頭のご挨拶

自動車リサイクル部品業界のリーダーとして カーアフターマーケット全体の活性化を目指し、 変革と挑戦を継続してまいります！

新年明けましておめでとうございます。
年頭に当たり新年のお慶びを申し上げます。
また旧年中は、弊組合に多大なるご支援を
賜り、改めて感謝を申し上げます。

昨年は脱内燃自動車への動きが世界中で
加速し、スウェーデンのボルボ社は
「2019年以降に販売するすべての車を
EV・HVなどの電動車とする」、イギリス・
フランスの両政府は「2040年までにガソ
リン車およびディーゼル車の販売を禁止す
る」と発表しています。また、インドでも
「2030年までに自国で販売するすべての
車をEVにする」という政府の方針が表明
され、中国では自動車メーカーに対して
EV・PHV・FCVなどの販売を義務化する
NEV法（新エネルギー車規制法）という
政策を発表いたしました。

国内においては、トヨタは「2030年の
電動車の販売を全体の50%以上とする」、
ホンダは「2030年をめぐりに販売する車の
3分の2をHVなどの電動化を目指す」と
の発表を行いました。経済産業省によりま
すと、ガソリン車に必要な部品点数を3万
個とした時に、EVでは約4割の部品が不
必要になると予測しており、当業界だけで
はなく自動車アフターマーケットへの影響
は大きいことが予想されます。

以上のようなEV化の波に加え、衝突被
害軽減ブレーキいわゆる自動ブレーキに代
表される先進予防安全技術の普及による事
故修理の減少、素材の進化、等々カーアフ

ターマーケットを取り巻く環境は大きな変
革の時期を迎えております。

そうした背景の中、私たちNGPは今期
の方針策定会議において決定した5ヵ年計
画、中・長期ビジョンを確実に実行してい
くために「未来創造プロジェクト」を立ち
上げました。

従来の委員会活動とは別に全国9支部か
ら選ばれた代表者が今後のアフターマーケ
ットの中で勝ち残っていくための施策をスピー
ディーに実行してまいります。具体的
には、NGPリユース部品の生産拡大のため
の施策を展開いたします。それによりお
取引先の工場様の自動車修理におけるリユ
ース部品の利用機会の拡大に应运えている
所存です。第二はリサイクル部品の販路拡大
の施策で、NGPの高品質な部品を今ま
で以上に全国のお客様に届けることを目的
に展開してまいります。具体的には昨年1
0月にブロードリーフ社と業務提携契約を
締結し、同社の運営するリサイクル部品流
通ネットワークとNGPシステムの連携に
向けた開発を進めており、本年5月リリース
を目指しているところです。

また、「お客様満足度向上」も私たち
NGPの永遠の課題として認識しております。
具体的にはより高い品質を目指し「ス
キャンツールセミナー応用編」を全組合員
が受講し商品の付加価値を高める、お客様
である整備钣金工場様をご招待し、あいお
いニッセイ同和損保社の協力を得て実施す



NGP日本自動車
リサイクル事業
協同組合
理事長
佐藤幸雄

る「次世代自動車セミナー」の強化、昨年
末にも実施した「宝くじキャンペーン」の
ようにお客様が参加しやすくかつ魅力的な
キャンペーンの展開、ベルマーク協賛企業
としてのベルマーク運動の一層の強化によ
る地場に密着した地域貢献活動の展開、
等々を実施してまいります。

この先、カーアフターマーケットはこれ
まで経験したことのない時代に突入します。
自動車修理・整備の現場に活気がなければ、
リサイクル部品事業者にも活気が生まれるこ
とはなく、自動車リサイクル業界が前進し
ていくためには、工場の皆様の発展が欠か
せません。カーアフターマーケット全体の
活性化に向けて、修理・整備工場の皆様と
一緒に取り組みを進めて行きたいと考えて
おります。今後ともご支援ご指導を賜りま
すよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝とご多幸を心より
お祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

水素エネルギーなど 新エネルギーの 活用に向けた 取り組みを紹介



日本最大級の環境とエネルギーに関する総合展「エコプロ2017～環境とエネルギーの未来展」（主催＝産業環境管理協会、日本経済新聞社）が12月7～9日の3日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催されました。会期中は160,091人が来場し、盛況を呈しています。

19回目の今回は「持続可能な社会の実現に向けて」をテーマに、企業や自治体、

学校など616社・団体、1,414小間が出展しました。自動車関連では軽量化やVOC排出抑制に貢献する各種素材や技術、FCVやEVといった次世代自動車のほか、超小型モビリティも展示されています。また、水素エネルギーを活用した社会に向けた取り組みや、2020年に開かれる東京オリンピックを見据えた環境活動についても紹介されました。



SUBARU

2017年4月から北海道で始めた森林整備活動「SUBARUの森」に関する活動をパネル展示で解説した



本田技研工業

水素製造・貯蔵・充填ができる「SHS 70MPaコンセプト」など水素に関する製品を中心に出品



マツダ

植物由来の原料を使用した「バイオエンジニアリングプラスチック」を用いたフロントグリルなどを展示



三菱自動車工業

「アウトランダーPHEV」を展示するとともに、PHEVやEVに関するクイズやワークショップを実施



自動車リサイクル促進センター

リサイクル工程で回収されたシュレッターダストなどを展示したほか、再生プラスチックを使った工作教室も



クラレ

耐チッピング性に優れ、PP系樹脂や下回りにも加飾可能な外装用塗装フィルムを提案



帝人

スポーツEV「トミーカイラZZ」にも採用されたPC樹脂製のフロントウィンドウを出品

NGPブースでは、リサイクル部品の環境性とともに品質をPR

廃車王をメインコンセプトにデザインされたNGPのブース内では、廃車の買い取りから部品の取り外し、リサイクル部品の使用までの流れを分かりやすく解説した大パネルを設置し、リサイクル部品の使用による環境負荷低減効果をアピールするとともに、それぞれの場面で活用できる廃車王、エコひろば、NGPパーツ王のサービス内容を紹介しています。

リサイクル部品の生産～出荷までの工程をVR（バーチャルリアリティ）で体験で

きる「バーチャル工場見学」コーナーでは、通常のVRゴーグルのほかに子ども用のVRゴーグルも用意しました。家族連れをはじめとした多くの来場者がVRを体験し、リサイクル部品の徹底した品質管理体制に大きな関心が寄せられていました。また、使用済み車両とNGPリサイクル部品の実物展示コーナーでは、新品部品との価格比較を提示することで、リサイクル部品の使用が経済的にも大きなメリットであることを紹介しています。

NGP協同組合・環境委員会の胡定晃委員長は、「今回は廃車王を前面に押し出したデザインで注目を集めて来場を促し、ブース内ではリサイクル部品の環境性はもちろん、その活用によるメリットをPRすることを目指しました。リサイクル部品の実物や、生産工程を見たことがある人はあま

NGP協同組合・環境委員会の胡定晃委員長



りいません。VRを活用した工場見学で品質を、新品部品との価格比較で経済性を紹介し、品質と経済性の両面でリサイクル部品の活用を訴求しました。3日目の土曜日は家族で訪れる方が多く、ブース内をゆっくり見学していただくことができました。今後もカーオーナーに対してリサイクル部品の環境負荷低減効果と品質のアピールを継続することで、整備・修理工場の皆様がリサイクル部品を使いやすい環境作りを進めていきたいと考えています」と、今回の手応えと今後の方針についてコメントしています。



幅広い世代から好評を得た「バーチャル工場見学」



NGPのWebサイトにて、バーチャル工場見学の動画を公開中！！



使用済み車両とNGPリサイクル部品の実物展示コーナーでは新品部品との価格比較表を提示。多くの来場者が関心を寄せた



毎年実施している、被災地支援募金にご協力いただいた方へエンブレムをプレゼントするコーナーは今回も大盛況。被災地支援のため全額を日本赤十字社に寄付する



NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

平成29年11月：**3,227t**

※自動車リサイクル部品産業共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含む）と115品目を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

平成29年11月：**5.9t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

国交省、第一回車載式故障診断装置を活用した自動車検査手法のあり方検討会を開催

OBDを活用した整備手法について検討を開始

国土交通省は12月4日、飯野ビルディング（東京都千代田区）にて「第一回車載式故障診断装置を活用した自動車検査手法のあり方検討会」を開催しました。

有識者として東京大学、芝浦工業大学、東京電機大学の教授に加え、日本自動車工業会をはじめ、日本自動車機械器具工業会、日本自動車機械工具協会、日本自動車整備振興会連合会、日本自動車車体整備協同組合連合会など各業界の代表者が招聘されて

います。

同検討会では現行の車検では対象となっていない、自動運転支援技術レベル1～2を中心に電子制御装置の整備手法として、車両に搭載されたOBDが排出する故障コードを用いるOBD検査が議論の俎上に上がりました。

また、現在のOBDの故障コード排出の基準については、排ガスの部分以外は各メーカーが独自に設定しており、検査制



度に使用するには不十分な部分があるため、道路運送車両の保安基準に定める性能要件を満たさなくなる不具合を検知できるように特定の故障コードをあらかじめ届け出てもらう方法が示されています。

1月中旬頃に関係団体の意見と主要な論点に関して議論し、2月下旬頃には報告書案を審議する予定です。これらを経て、3月下旬には報告書のとりまとめを行う予定です。

NGP組合員 かわら版

第36回自動車リサイクル部品産学共同研究会を開催 稲葉教授とリサイクル部品のCO₂排出量評価に関して意見交換を実施

自動車を修理する際に、リサイクル部品を使用した場合と新品の部品を使用した場合のCO₂排出量の差を数値化するため、NGPが富山県立大学及び明治大学と共同で進めている自動車リサイクル部品産学共同研究会は、12月15日に第36回の会合を開催しました。

研究会では、参加者よりリビルド部品生産工程におけるCO₂排出量の計算方法や、新品部品生産時のCO₂排出量と

の比較についての調査・研究結果の報告が上げられました。その後、製品・サービスのライフサイクル全体における環境負荷を評価する「ライフサイクルアセスメント」分野の権威である工学院大学環境化学科・稲葉敦教授へ、これまでの研究成果を説明しました。稲葉教授は同研究会の調査方法、研究方法を確認し、今後の研究に向けたアドバイスをいただきました。

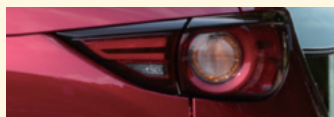


工学院大学環境化学科・稲葉敦教授（前列右から2人目）と、自動車リサイクル部品産学共同研究会メンバー

同研究会は稲葉教授のアドバイスを活かして今後も調査研究を続け、リビルト部品の使用によるCO₂排出量削減効果の提示に向けてさらに研究を進めていく予定です。

お年玉クイズ

Q. これは、
どの車種のテールランプ？



クイズに正解した方の中から、抽選で3名様にクオカード1万円分をプレゼント！

下記の応募用紙に解答と必要事項を記入して、FAXにて「お年玉クイズ」係までお送りください。

ご応募の締め切りは2月25日到着分までとさせていただきます。

正解はNGP3月号にて発表いたします。なお、当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

■下記の応募用紙に解答と必要事項を記入しFAX をお送りください。FAX 番号はお間違のないようお願いいたします。

「お年玉クイズ」係

応募用FAX番号 03-5475-1209



解答	お名前	職業	ご住所	電話番号	年齢	性別
					歳	男・女

NGPニュースで取り上げてほしいテーマ

※ご記入いただいた内容は賞品の抽選・通知・発送のほか、今後の本サービスの参考とするためにのみ使用させていただきます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<http://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<http://www.ngp.co.jp/>